

話が違いすぎ

人生を狂わせる公庫の適当な講座



制作/監修/編集：ルリニコク

2024年 令和6年
4月18日

第3号

今回は白井市の「創業塾」および日本政策金融公庫の事実と異なった審査基準の説明によって、人生の貴重な二ヶ月間を浪費してしまった話をしよう。

私は千葉県白井市の商工会が主催する「創業塾」を知った。このイベントはこれから起業を考えている人たちのための創業に関する講義やワークショップを全四回でおこなうもの。有料ではあるが国の認定を受けた特定創業支援事業とのことで、参加すると日本政策金融公庫からの融資の特別待遇を受けられる。そんな話を聞いて、私は個人事業を営んでいる父親とともに参加することにした。

日本政策金融公庫とはなにか。ご自身で事業をしている方ならご存知かもしれないが、平たくいえばこれから事業をする人に好待遇で融資してくれる金融機関だ。通常の銀行よりも審査がゆるく、また一定額以下ならば担保も要らない。そのかわり、個人の状況を重視する。結論からいうと、その審査に私は落ちた。

落ちたこと自体は仕方ないし、想定内だ。しかし問題は、その審査基準が有料イベントである「創業塾」で説明された内容と大きく異なっていたことだった。講義にきていた公庫の若き融資課長は参加者たちに対して、明確にこう発言していた。

「創業資金が集まらないときでも、公庫ならばお力になります。」

「通常であれば借入希望額の十パーセントの自己資金が最低でも必要です。しかし、この創業塾を出た方の特典で、あなた方はそのお金が必要ありません。」

「これまでの経験ときちんとした計画、そしてなにより熱意が最も重視されます。」

憤怒新聞とは？

ルリニコクおよび合同会社ぎあはーとが制作する新聞型フリーペーパー。皆様の怒りを代弁したり、調査したり、寄稿いただいた詩や文章をご掲載します。ストーリー的な憤怒から笑い飛ばせる憤怒まで、さまざまな人間のありのままを表現する媒体です。メルマガ版も面白いよ。



メルマガ登録はこちらから！

そのほうがより確実だと判断したからである。さらに自ら白井市の商工会へ質問に行くと、公庫審査のポイントや内容を再度おさらいした。

こうして全二十六ページにおよぶ創業計画書をもって、私は松戸にある日本政策金融公庫の支店へ向かった。まず初訪問では、創業塾で聞いた内容に齟齬がないか、そしてその特典が本当に受けられるのかを確認しようと思った。

案内してくれた女性の方は、足りていなかった資料のご指摘をしてくれ、この創業計画書のまま面談をすることができるとのこと。創業塾の特典は有効だということを確認してくれ、どうやら齟齬はなさそうだった。私は胸を撫でおろしながら帰路について。

その一週間後、迎えた面談当日。担当したのは二十代前半ほどのかなり若く見える男性。肩書きは融資課長代理とのこと。彼に冒頭でこう言われた。

「個人事業主としてすでに創業している方は、創業塾の特典が受けられません。」

疑問符が身体中を駆けめぐった。そんな話は、創業塾でも先週の公庫の女性からも一切聞いていない。一緒に参加した父親にも確認したが、実際にそんな話は一切なかった。実際あの創業塾に参加していた三十名のうち半分近くは、すでに個人事業主として活動していた。これは明らかに変だ。

ただ、もうどうしようもない。特典が無効だった場合でも対応できるように、自己資金は借入希望額の十パーセント以上用意してある。さらに事業内容は二ヶ月煮詰めたものだ。自分の経歴と実績とスキルをすべて活かせる内容に

なっている。とりあえず内容で勝負しようと思ひ、私はその融資課長代理からの質問に答えていく形で話を進めていった。

そして第二の衝撃が私を襲った。一週間以上前に私は事業計画書を提出していただかなかった。彼は内容をまったく理解していなかった。言動から、ほぼ読んでいなかった可能性もある。というより、そもそもそこに興味がないように感じた。そして事業の詳細よりも、前年と前々年度の収入と自己資金についての質問が多く飛んできた。「創業塾」での説明によれば「最も重視される」はずの事業に対する動機や熱意を伝えるようなタイミングはほぼやってこず、自分から不自然に切り出して話すことになった。

最終的に前年々々の収入が少なかったこと、自己資金額が借入希望額の最低でも三分の一は必要だったということ指摘された。そして事業内容に問題はないが、融資はおそらく厳しいだろうという所感をいただいた。これ自体はありがたかった。数日後、私が審査に落ちたという内容の電話が鳴った。

誤解しないでいただきたいのだが、決して私は審査の基準や結果に不満があるわけではない。私は色々な事情で子育てをしつつ、限られた環境のなか在宅で働かなくてはいけない。収入は高いとはいえないだろう。大切なお金を貸すのだから、自己資金額の基準も厳しくして然るべきである。

ただ、創業塾における説明と大きく内容が違った点に関してはどうしても許すことはできない。そもそも公庫が最後に話した「正しい基準」を創業塾で説明してくれていれば、なにも問題はなかったのだ。初めから無理だとわかっているものに出すことはない。事業内容のつくり込みによっては可能性が高まる、という幻影を見せられたことで二ヶ月間をこの公庫対策にあててしまった。

もう白井市の商工会および日本政策金融公庫を信用することは一生ないだろう。ご立派な社会はあまりにも堂々と、平気で適当なことを言う。そんなことを改めて思い知った冬の出来事だった。

ルリニコクみみみ

春とサプリ

あをみわらし

私には常飲している何種類かのサプリメントがある。それは小瓶に入った固形の錠剤でなく、大体が映像や音などの、心に直接取り込む形をしている。他者の心から生み出されたものだから、「心形のサプリ」とも呼べるかもしれない。

そして私がこの時期摂取したくなるそのなかに、大橋トリオの「Dearest M」という作品がある。この作品に初めて出会ったのは今から8年ほど前のZINXホールでのライブだった。知人に誘われて行った何気ない空間が、意図的に作り出された完全な暗やみへと一変し、そこから紡ぎ出される心地よい空気の震えに、涙が止まらなかつたのを覚えている。ぼっかりと穴の空いた心にそっと湧きだす何か、花嵐のあと雲間から差す夕日に照らし出された、生まれたての世界のような瑞々しさと美しさ、侘しさ儂さ。私の少ない語彙力では伝えきれない、様々な映像や感情が押し寄せる、重なり重なりときだつた。

空間と心が一致したとき、人は幸福を覚えるという。震える、という点では同じものだからかもしれない。心の原点に返ったり返らなかつたり…そんな揺らぎを置き去りに気づけばまた、風は次の季節の香りを運んでくる。

浅葱りんのエッセイ

そんな日常の出来事を率直に記しても差し支えはなからう、それが取るに足らぬ秘密ならば。最後の日には全て放棄して、誰かに見られる事を望むのだから。空き缶まで輝かせていた。爪痕、払いえぬ、呪いとして誰かに。日記に並ぶのは傲慢な言葉ばかり、傲慢は不定期な説話だった、筆記故に消すことが出来ない、だかもし祈れるとしたら……私はどうする？

今日は東京に行って物件の内見をする日だった。私は深夜の泥塗を引ぎずった眼差して、珈琲の湯気をリビングの天井までなぞっていた。後、数十分で仙台駅に向かう。弟は私が相手をしてやらなくて大丈夫だろうか？ 学校の朝の放送を聞き校庭を駆け抜けられるだろうか。そんな不安が過った。不安が過ると、もうタクシーに乗る時間になっていた。……私が不甲斐ない為、母親もついて来る事になっていた。私がタクシーに先に乗り、母はさも重たげに身を横たえる様にしてシートベルトを締めた。

タクシー運転手は珍しく若い女性で、ピアス(インダストリアル、ヘリックス)だらけの耳にAirPodsを付けていた。刈り上げた髪は、地をなぞる雪風の様さらさらと揺れていた。十五分程すると、仙台駅に着いていた。私は未だ深夜の泥塗を引き摺ったままでロータリーを進む。

新幹線に乗るのは久しぶりだった。新幹線に乗る時は決まって入院帰りだった為、あまり良い印象が無い。席に座るや否やイヤホンをつけてSky Ferreira 1st Sky曲目、boys&girls曲目ソタンを2錠流した。三曲目に差し掛かる頃には、朝日も昇り、その銀朱の歌声を持つて、街の角にある捨てられた空き缶まで輝かせていた。私の希死念慮は乳飲子をあやすぐらいには己で制御出来る様になったものの、未だに得体の知れないそれは、細分化して発端を考えても見当たらない迷路の出口の様焦燥や不安感が残っている。残滓と言ふより顕現されたカルマの如く受肉している。

意外と時間がかかると思っていた内見だったが良い物件が直ぐに見つかり、新しい我が家となる事になった。東京の生活が待ち遠しい。そう……私は東京駅に着いた時から、驟雨の様に勢いを増す人の足音、紫色の甘い匂いがする窓から見える社会の配列、抽象画の様になった往來する車や電車など、酷訂しそつうだった。何に？東京に立つ己に？人が流動し渦になる街。家賃八万五千のワンルーム生活がこれから始まるのだ。前回の東京生活での失敗、同じ轍は踏まない。



みんなの憤怒

怒りはアートの昇華するの一番生産的！これはルリニコクと皆さまのエネルギーを合わせてひとつのムーブメントをつくっていく企画でございます！今回のテーマは『悲しい怒り』と書いて『悲怒』。Xにてご参加いただいた皆さまの作品から一部をご紹介します！

煉炭の鏝に包まれた孤独は命の深淵に墜ちた怒りの焔に燃け易いと 若き詩人が恍惚と詠うのを 午前二時の酒場の隅に ピエロの耳で聴いていた

卓台の鼻紙の上 乱雑に置かれた檸檬の死体は 燻る煙草の紫煙の川に誘われて 香ばしい月に変わっていった …… 雨に成れない私を独り 悲恋の夜に棄てた儘！

海鳴りに赤く しゃがみ込む脳髓 言えなかつた言葉 はみ出す自己を押し黙らせては はらわたが絶叫する 夜がくるのが怖いのはなぜ 誰か傷つけない誰でもいいから フラスコが割れるまで 凍える舌を飼いなす

あたしだけ遺して 先に旅立った あたしだけを遺して 一人じゃ何も出来ない 知ってるでしょ 心の中から 沸々と悲しみから怒りに変わった 許せるまでもう少し時間頂戴 時が解決してくれるって 皆が言ってたけれど 怒りを消化する術を知らないから 原動力に変えてみせる 生きる原動力になるかな

ここで僕が手にしている嬉しさや穏やかさと相殺する為と同じ分量の悲しみや怒りをどこか遠くで誰かが味わっているに違いない。(あるいはそっちが僕だろうか。)

『渦』 鎖に繋がれた想いは腐りながら崩れていき塵の様に積もった涙 いるのが可笑しく思えて私は壊れているのかと めるので夢の世界の話ではないと 眺いてまく気持ちはなかと 眺て渦だ未がたし信確と 黙が明が夜とく付気もどえ考に剣真 いてのくいてれ流とへ溝水排に情無もえさ涙

もう誰も死なない わたしの周りで皆んな 死んでしまったから もう何処にも詩は無い 知っていた全ては 逆さまだから 過去も未来も 同じ嘘の中にいるから 殺されてもさげばない この星の もじ誰も 孤独になれない

この空には いつになったら 青が戻るのだろうか 哀しみと憎悪 裏切りと謀略 破壊される日常 愛する人と 引き離される苦しみ 夢を見ることすら 諦めて 今日を必死に 耐え抜くしかない 今日も涙と 血の雨が降る この空には いつになったら 青が戻るのだろうか

首を刎ねる イメージをする
根絶やしにする イメージをする
チロルチョコ を渡してみる
ハゲ と言ってみる
キスをする ふりをしてみる
八つ裂き にする イメージをする
いいところを3つ 教えてあげる

A							
B							
C							
D							
E							
F							
G							

言おうか言うまいか、キレるか我慢か。 いろいろ迷ったときにどうぞ ※犯罪行為はだめですよ。

憤怒あみだくじ

激しい恋愛感情は 憤怒に似ている。

by 深夜のラーメンを喰らうみみみ

今回の憤怒新聞ではもうひとつ「熱恋」というテーマで詩作募集いたしました。燃えるような恋愛は、どこか憤怒に似ている。深夜のラーメンをみていたらそんなことを思ったわけです。

花曇 (はなぐもり)
赤く照らしてしまうほど
きみへの愛がわたしを壊す

りんごちゃん
(@love_kei_lina)

紅色 月
浮かぶ 夜に

清らかな
心など 要らぬ

眠らせている
真紅の 微熱

情熱の
炎に 変え

恋し
面影

此の心に
思う存分 食べるだけ …

粉々に
身 心 碎ける程

燃え尽くす だけ

尾の巻やん
(@tukino_yume28)

聞いて欲しいことなど何もなくて
訴えたいことなど何もなくて
内容など何もなくて
ただ逃げたくて
ただ死ぬのが恐くて

恋する時間は過ぎ去って
体の中の魔物に侵されて
燃えた熱まで食い尽くされて
この胸の雪を溶かせない

杉の森の雪のベッドで
狭い空を仰ぎ見た午後

ペンタドルさん
(@AnzYu84952)

焔風 燻る心に紅の華
万葉と薫れ 倅ひらくまで

まきちゃん
(@ThankXThank)

いつぞやの
神の定めし
紅き糸
遊び遊ばれ
結んだ文を

菊姫ちゃん
(@kikumimoutage)

天上の花火に近づくのだから
熱いわけです

人と人との境が溶けるぐらい
熱いわけです

聖者が酔いどれるほど
熱いわけです

それほどあなたの薔薇色に潤う唇は
熱いわけです

うたふたろちゃん
(@utafuandfriends)

「アイスワーカー」

アイスワーカーのグラスの中を
裸で泳ぐ
七月の沖繩の熱い夏と君
クールに戯れ
砂浜で焼けた体を冷まし
氷点下の敷布団でひんやりし
熱恋を冷ます

くちやん
(@gogoyubar139)

謎のカリスマオフィスレディ

紅雨

彼女は一体何者なのか。社会に生きる女の生の声を聴く。



解らないと
言ってくれれば
それだけで
あなたの横に
居続けたのに

紅雨

ルリニコク サブスクにて楽曲公開中。

ルリニコクとは

通称「ルリニコク」。1人のゆらぎを放つ唄と
サイコなヴァイオリンの2人組ユニット。
癒しと攻撃性が相まったサウンド、
人間のリアルを見つめる詩で世界の常識を切り刻む。

YouTube music&Amazon music、spotify&AWA
など楽曲配信のサブスクサービス各種においてルリニコクの
1stアルバムが聴けるようになりました！再ミックスし、よ
り心に響くようになった楽曲たちをぜひお楽しみくださ
い！さらに今月は！ルリニコクのヴォーカルあをるわら
しの過去アルバムをサブスク解禁させていただく予定です！
ルリニコクとはまた違った世界観をぜひお楽しみいただけた
らと思います！



『青赤緑の備忘録』が各種サブスクにて
公開中です。ぜひ「ルリニコク」で検索
してみてください！さらにはCD版や新ア
ルバムの予定も！最新情報はXやHPで
要チェックや！



▲あをるのソロアルバムは今年26日からサブスク解禁！